



事業報告書 2020

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

南近畿から広がる 新しい未来への扉

■ 連携機関



事業実施責任者 ごあいさつ

大阪市立大学（代表機関）、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、2017年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に選定されました。本事業の実施にあたり、代表機関である大阪市立大学と、共同実施機関である大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を実施し、連携して、ダイバーシティ研究環境整備、女性研究者の研究力向上・リーダー育成、女性研究者の上位職登用促進に取り組んでまいりました。また、2020年9月より南近畿女性研究者ネットワークが本格的に活動を開始し、女性研究者の共同研究の拡大や国際的なリーダー育成を図る「南近畿圏共同研究プラットフォーム」が構築されました。

事業4年目にあたる2020年度は、女性研究者の共同研究を促進するために引き続き「連携型共同研究」の助成を行いました。積水ハウス株式会社との共同研究プロジェクト「産学官連携ウィメンズユニット」では、新たなプロジェクトが開始されました。また、「南近畿圏共同研究プラットフォーム構築」により女性研究者の活躍促進、南近畿圏の共同研究の拡大への基盤が整いました。外部資金獲得セミナーやマネジメントに関わるセミナーなどは、Zoomを使ったオンラインセミナーにて開催し、女性研究者の研究力やスキルアップを図ってきました。中間総括シンポジウムもZoomウェビナーにて実施し、英国のUCLと米国のウィスコンシン大学から講師を招いて基調講演やパネルディスカッションに参加していただきました。海外の知見を活かしながら、さらに女性研究者の採用・在職者比率の上昇、上位職の一層の登用促進を目指して、南近畿の産学官連携および国際連携を進めていく所存です。

南近畿圏に拠点を持つ多様な機関が連携して取り組む本事業が、周辺機関にプラスの波及効果をもたらしつつ、発展拡大していくことができますよう、今後とも皆様の一層のご支援とご協力を賜りたく存じますのでよろしくお願い申し上げます。

2021年3月
大阪市立大学（代表機関）
女性研究者支援室長・学長補佐

宮野 道雄

目次

事業実施責任者 ごあいさつ	1
I 事業概要	3
II ダイバーシティ研究環境整備	5
連携機関長会議と連携機関連絡会議	
ダイバーシティ保育サポーター	
研究支援員制度	
保育サポート事業	
介護相談窓口	
総合相談窓口	
女性研究者ネットワークシステム	
広報・啓発活動	
III 女性研究者の研究力向上・リーダー育成	8
連携型共同研究助成	
「産学官連携ウィメンズユニット」による共同研究プロジェクト	
研究発表交流会	
キャリア研修・研究力向上セミナー	
女性研究者メンタープログラム	
女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業	
企業インターンシップ	
研究施設の共同利用	
IV 女性研究者の上位職登用促進	13
2020年度ダイバーシティ研究環境実現 中間総括シンポジウム	
女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修	
プロモーションメンタープログラム	
クロスアポイントメント制度	
V 各連携機関のその他の取り組み	17
大阪市立大学	
大阪教育大学	
和歌山大学	
積水ハウス株式会社	
VI 主な取り組み一覧	22

I 事業概要

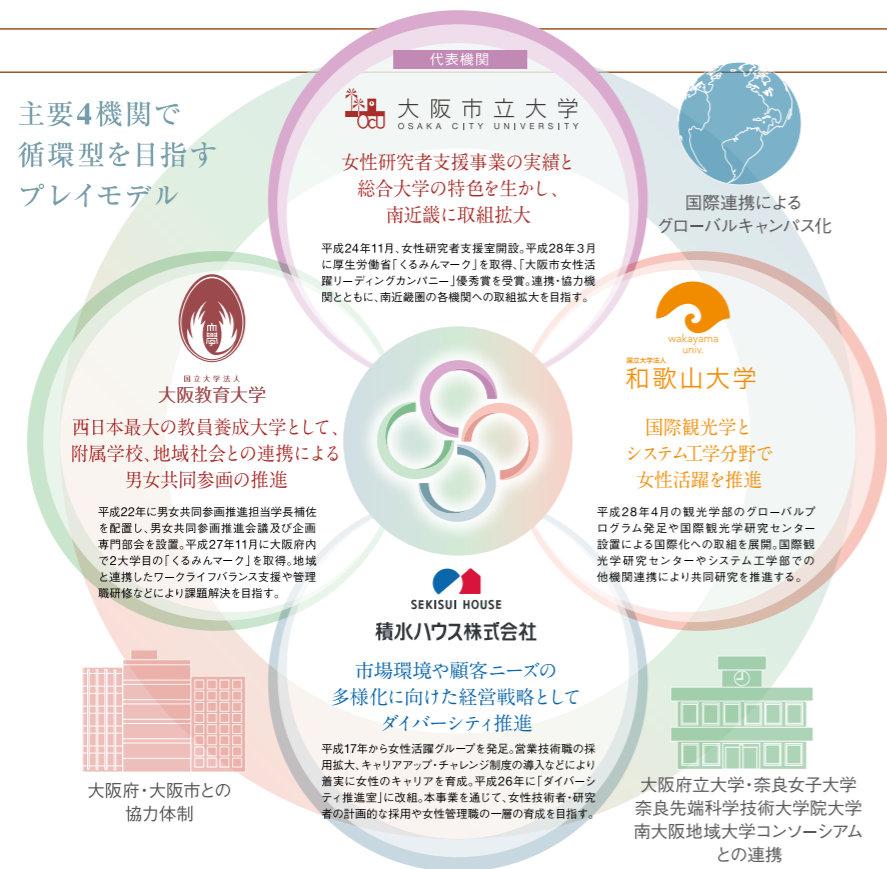
本事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、次の3つの取り組み-1) 女性研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮したダイバーシティ研究環境整備、2) 女性研究者の研究力向上・リーダー育成、3) 女性研究者の積極採用や上位職登用促進-を中心に実施します。「牽引型」では、大学や研究機関が企業等と連携し、連携する各機関をはじめ、その他の機関を含めた地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取り組みが求められています。事業期間は、2017～2022年度の6年間です。

代表機関の大阪市立大学は、都市型総合大学としての総合力と特色（生活科学研究科の存在など）を生かし、産学官連携による女性研究者のキャリア形成と人材交流を促進するとともに、国際的有力大学との連携を通じてグローバルキャンパス化を図り、女性研究者の活躍促進、国際的なリーダー育成を目指した「南近畿圏共同研究プラットフォーム」構築を進めます。

共同実施機関である積水ハウス株式会社は、市民に開放されたオープンイノベーション研究拠点を活用して、産学官連携による「新しい住文化」に関する創造的な提案を行います。

大阪教育大学や和歌山大学との事業の共同実施を通じて、本事業は南近畿の企業や研究機関へと連携を拡大します。

【連携体制】



【連携機関】

- 大阪市立大学 女性研究者支援室 : <http://www.wlb.osaka-cu.ac.jp/>
- 大阪教育大学 男女共同参画推進会議 : <https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/jinji/diversity/index.html>
- 和歌山大学 男女共同参画室 : <http://web.wakayama-u.ac.jp/equal/>
- 積水ハウス株式会社 ダイバーシティ推進部 : <https://www.sekisuihouse.co.jp/company/diversity/>

【3つの取り組み】

1. ダイバーシティ研究環境整備

- 研究支援員制度
- ダイバーシティ保育サポーター
- 介護相談窓口の開設
- 保育サポート事業（保育利用料補助事業）

2. 女性研究者の研究力向上・リーダー育成

- 連携型共同研究助成事業
- 「産学官連携ウイメンズユニット」による共同研究プロジェクト
- キャリア形成・研究力向上セミナーの実施
- 女性研究者メンタープログラムの実施

3. 女性研究者の上位職登用促進

- 国際シンポジウムの実施
- 女性管理職育成のためのキャリア研修・管理職研修の実施
- プロモーションメンタープログラムの実施
- クロスアポイントメント制度
- 管理職の人事交流の実施

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

ホームページ <https://diversity-oows.jp/>

II ダイバーシティ研究環境整備

【連携機関長会議と連携機関連絡会議】

本事業を連携機関が協働して実施するために、昨年度に引き続き「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を実施しました。「連携機関長会議」では、連携機関の機関長が事業の進捗状況を共有し、数値目標達成や事業の課題について協議しました。「連携機関連絡会議」では、本事業の実施責任者等が具体的な事業計画の立案や進捗管理を行いました。

【ダイバーシティ保育サポーター】

連携機関の大学キャンパス等で一時保育（学童保育等）を行う際の支援者「保育サポーター」を養成するため、今年度はオンライン（オンデマンド型）で「保育サポーター養成研修講演会」を実施しました。

■ 保育サポーター養成研修講演会

「あなたの身近にもいる LGBT ～男女や LGBT だけじゃない！性のあり方は十人十色～」

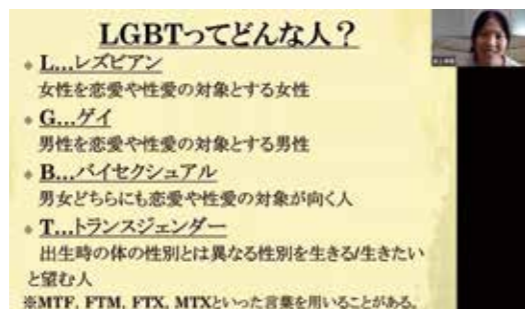
【2021年3月オンデマンド実施】 参加：46名

講師：井上鈴佳氏

大阪教育大学主催による保育サポーター養成研修講習会をオンデマンドで実施しました。「あなたの身近にもいる LGBT ～男女や LGBT だけじゃない！性のあり方は十人十色～」と題し、井上鈴佳氏が講演しました。

井上氏は、同大学教育学部養護教諭養成課程卒業後、中学校・高等学校の保健室で勤務。『男の人が好き』という男子生徒との出会いにより、自身のそれまでの周囲との恋愛観のずれへの疑問が解け、レズビアンであることに気づいたとのこと。現在は同性のパートナーと安心・安全に暮らすことの出来る世の中を目指し、より多くの人が多様性を認め合い、誰もが自分らしく自信を持って生きることが出来る社会の一端を担うべく、講演活動や、大阪府内外の小中学校・高等学校・特別支援学校での教職員研修会や子どもたちへの特別授業など LGBT と性の多様性に関する出張授業等を行っておられます。

講演では、基本的な知識とともに自身の経験や、友人含め LGBT 当事者の方々の話などを生き生きと語っていただきました。参加者からは、「セクシャルマイノリティだから皆と違うとかではなくて、私達それぞれが持っている個性の1つとして考えていくのが大切なのだと感じました」「様々な事例聞いたことで自分の中の意識がかなり変わりました」「セクシャルマイノリティの児童生徒にとって、同じ当事者の方が明るく楽しく生きている姿を見ることが彼らに元気を与えるという話がとても印象深かったです」といった感想が寄せられました。



【研究支援員制度】

研究支援員制度は、出産・育児・介護を抱える女性研究者の研究支援のために、研究支援員（学生・院生・卒業生他）を配置する制度です。研究支援員は、研究者の監督・指示のもと支援業務を行います。研究支援員の登録対象者は、大阪市立大学、大阪府立大学、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学に所属する研究者、学部生、大学院生、卒業生、その他の登録希望者です。

登録後、大阪市立大学が研究支援員登録者の希望条件に応じたマッチングを行います。



【研究支援員制度の利用者数】

2020年度	研究支援員利用者	研究支援員
大阪市立大学	8名	14名
大阪教育大学	7名	8名
和歌山大学	1名	1名

【保育サポート事業】

大阪市立大学では、研究者の研究活動と家庭生活の両立支援のため、2015年より独自の保育サポート事業（夜間・休日保育、病児・病後児保育、学童保育利用料補助事業）を実施しています。大阪教育大学も2019年10月から保育サポート事業を開始しました。

2020年度	利用者	件数
大阪市立大学	4名	41件
大阪教育大学	3名	3件

【介護相談窓口】

介護相談窓口は、連携機関の女性研究者・ポスドク・院生等を対象に、①介護問題解決のための具体的な手立てや専門知識の提供、②学外の地域包括支援セミナーや行政窓口等の紹介・連携、③相談員の育成を目的として開設しています。介護ハンドブック解説動画「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」の基礎編・応用編に続き、今年は認知症編を2020年4月24日にYouTubeで公開しました。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、在宅介護での感染対策、在宅介護の継続や注意点等を5つのポイントにまとめた資料「新型コロナウイルス感染症対策～介護と仕事の両立～」、子どもが親やきょうだいなどの介護や世話をしている現状についての資料「ヤングケアラーの現状と課題」をホームページに掲載しました。在宅勤務の広がりや遠隔授業によって介護相談窓口を直接訪れることが難しい方のために、介護相談をZoomにて行うオンライン相談を開始しました。さらに、ホームページ内の介護相談窓口ページを充実させ、チラシをリニューアルしました。





女性研究者の研究力向上・リーダー育成

積水ハウス株式会社では、オンラインでの動画視聴による介護支援セミナーを実施しました（2020年12月1日～2021年1月31日）。セミナー修了者を対象に、介護の理解促進や介護支援ニーズの現状把握のためのアンケート調査を行いました。アンケート結果から、早急に対応が必要なケースについては、介護相談窓口と連携し面談を実施しました。

相談件数：12件

【総合相談窓口】

大阪市立大学では、女性教員・研究員・大学院生のライフイベント、人間関係やキャリア形成、心身の不調や変化等、さまざまな悩みに応じて学内外の専門機関を紹介しています。

相談件数：18件

【広報・啓発活動】

2017年度に開設した本事業のホームページ< <https://diversity-ooows.jp/> >を引き続き運用し、事業の周知・広報を推進しました。本ホームページでは、連携型共同研究の研究内容や、女性研究者のロールモデル、連携機関で開催されるイベントの紹介などを行っています。また、ニュースレター vol.7、vol.8や、介護ハンドブック解説動画「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」（認知症編）をYouTubeで公開しました。



【連携型共同研究助成】

連携機関（大阪市立大学、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社）に所属する女性研究者を研究代表者とし、2連携機関以上の研究者による共同研究に対して研究費の助成を行う事業です。実施要領に基づいて連携機関が共同で審査し、下記18件の研究課題を採択しました。

大阪市立大学…9件 大阪教育大学…6件 和歌山大学…2件 積水ハウス株式会社…1件

2020年度 連携型共同研究採択一覧

【大阪市立大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
吉田 朋子 人工光合成研究センター 教授	銀ナノ粒子担持酸化ガリウム光触媒の調製とその二酸化炭素還元反応メカニズム解明	矢嶋 摂子 和歌山大学 システム工学部 教授 門 晋平 和歌山大学 システム工学部 助教
岩崎 昌子 理学研究科 准教授	機械学習を用いた物理学実験データ処理技術の開発	深澤 優子 大阪教育大学 教育学部 准教授 住濱 水希 岐阜大学 教育学部 准教授・大阪大学 核物理研究センター 特任准教授 谷口 七重 高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 助教
佐々木 洋子 大学教育研究センター 特任助教	社会的公正に基づくダイバーシティ教育プログラムの構築	西倉 実季 和歌山大学 教育学部 准教授 山口 真紀 神戸学院大学 全学教育推進機構 講師
福村 智恵 生活科学研究科 准教授	都市部中学生の主体的な健康食習慣の習得を目指した地域連携食育ネットワークの構築と評価	早見 直美 大阪市立大学 生活科学研究科 講師 西川 章江 大阪教育大学 教育学研究科 准教授
沼田 里衣 文学研究科 准教授	新型コロナウイルス感染症に対応するためのICTを活用したコミュニティ音楽実践の開発	上野 智子 和歌山大学 教育学部 准教授 菅 道子 和歌山大学 教育学部 教授 山崎由可里 和歌山大学 教育学部 教授
小関 珠音 都市経営研究科 准教授	工業地域の再生と「豊穡化の経済」一場所の記憶、ツーリズム、コミュニティ、エコシステムー	藤田 和史 和歌山大学 経済学部 准教授 立見 淳哉 大阪市立大学 経営学研究科 准教授
植松 千代美 理学研究科 准教授	台風による攪乱を経た植物園で生き物の不思議を学ぶデジタルコンテンツの開発	岡崎 純子 大阪教育大学 教育学部 准教授
藤井 律子 人工光合成研究センター 准教授	海洋性緑藻ミルの強光に対する馴化システムの分子メカニズムの解明	荒木 良一 和歌山大学 教育学部 准教授 竹田 恵美 大阪府立大学 理学系研究科 准教授
福田 美穂 生活科学研究科 准教授	大阪市に現存する伝統的木造住宅の生活文化—とくに食と住の習慣に着目して—	小伊藤亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授 小池志保子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 碓田 智子 大阪教育大学 教育学部 教授 西川 章江 大阪教育大学 教育学部 准教授

【大阪教育大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
井奥 加奈 教育学部 教授	Society5.0に対応した調理科学を基礎とするオンライン実験に関する基礎的検討	小島 明子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 福田ひとみ 帝塚山学院大学 人間科学部 教授 松村 羊子 畿央大学 健康科学部 教授
田村 知子 連合教職実践研究科 教授	危機的状況下の学校におけるカリキュラムマネジメント —教育委員会の施策と各学校のカリキュラム・リーダーシップに着目して—	田中満公子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 岡田 和子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 長谷川和弘 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 餅木 哲郎 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 木原 俊行 大阪教育大学 連合教職実践研究科 教授 佃 千春 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特命職員 島田 希 大阪市立大学 文学研究科 准教授
碓田 智子 教育学部 教授	住文化を伝える生きた実物教材としての重文民家の活用に関する研究	長谷川ユリ 大阪教育大学 教育学部 教授 西川 章江 大阪教育大学 教育学部 准教授 小池志保子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授
岡崎 純子 教育学部 教授	シダ植物の多様性の起源：倍数化を通じた進化過程	名波 哲 大阪市立大学 理学研究科 准教授
青木 宏子 教育学部 特任准教授	美術館鑑賞教材「アート と ともだち」を用いた教育の実践と検証	渡邊 美香 大阪教育大学 教員養成課程 准教授 高橋 暁生 積水ハウス株式会社 CSR部 網谷 幸二 天空美術館 研究員
出野 文莉 教育学部 准教授	幼稚園児・小学生の漢字教育の改善提案について	森 久佳 大阪市立大学 文学研究科 准教授

【和歌山大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
秋元 郁子 システム工学部 准教授	先端 ESR 装置を活用した光キャリアおよび光誘起スピンの研究	松岡 秀人 大阪市立大学 理学研究科 特任准教授
藤田 絵理子 教育学部 特任助教	「包括的性教育」に関連した大学生意識調査による性教育プログラム作成の展望	安達 智子 大阪教育大学 教育学部 教授 林 修 和歌山大学 教育学部 教授・副学部長 森下 順子 和歌山信愛大学 教育学部 准教授 鶴岡 尚子 和歌山大学 教育学部附属特別支援学校 養護教諭 岩田 智和 和歌山県庁 和歌山県立仙溪学園 心理療法担当職員

【積水ハウス株式会社】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
河崎 由美子 住生活研究所 所長	多世帯居住における研究開発	小伊藤亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授 近藤 雅之 積水ハウス株式会社 住生活研究所 課長 平岡 千穂 積水ハウス株式会社 住生活研究所 社員

【産学官連携ウィメンズユニットによる共同研究プロジェクト】

2018年1月より、大阪市立大学生活科学研究科から積水ハウス株式会社総合住宅研究所（現、住生活研究所）に女性教員（特任教員1名）を派遣し、「産学官連携ウィメンズユニット（WUSO）」（積水ハウス株式会社住生活研究所長1名、大阪市立大学：教授1名、特任助教1名の計3名）による共同研究プロジェクトを実施しています。

2017～2019年度に実施した、「近居する子育て中の親世帯と子世帯のライフスタイル」に関する研究結果を受け、2020年度は、研究結果の一般生活者へ向けた情報発信、生活リテラシー向上を目的とし、住ムフムラボ HP でのコラム制作（2本）、冊子制作（1本）を行いました。また、2019年度の研究結果を本年度の学会等（日本建築学会近畿支部研究発表会（2本）、日本建築学会（4本））で発表しました。

本年度でこのテーマにおけるユニットの活動は終了となりますが、4年間で計14本の学会投稿をすることができました。



親との最適な住まいの距離感って？令和時代の暮らし方を専門家に聞く
積水ハウス 住ムフムラボ HP

【研究発表交流会】

■第4回女性研究者研究発表交流会

【2020年12月11日（金）】 オンライン開催（Zoom）参加：36名

講演：伊藤 久美（4U Lifecare 株式会社 代表取締役社長 CEO）「リケジョからリケジョにおくる、新しいキャリアの考え方」

研究発表1：平岡 千穂（積水ハウス株式会社 住生活研究所）「多世帯住居に関する研究 共同研究成果の一般生活者への発信」、白井 友崇、藤本 真凛（大阪市立大学 生活科学研究科 修士課程）「近居する親子世帯における子育て期の生活共同化と住み方 24件のインタビュー調査から」

研究発表2：西川 章江（大阪教育大学 教育協働学科 准教授）「食品機能研究から多面的・多角的に考える食生活研究へ」

研究発表3：藤田 絵理子（和歌山大学 教育学部 特任助教）「地域包括的な性教育モデルの展望」

基調講演では、「リケジョからリケジョにおくる、新しいキャリアの考え方」と題し、伊藤 久美 氏より「ウィズ・コロナ時代の到来によりこれまで以上に大きく変わったキャリア形成において、仕事だけではない、自分の人生をどう考えるか」という観点から多くのヒントを頂きました。また、各機関を代表しての研究発表も行って頂きました。初のZoom開催となり、女性研究者同士の直接の交流はできませんでしたが、参加者の有意義な時間となりました。

文部科学省 科学研究費助成事業「ダイバーシティ推進事業（研究費）」
【オンライン配信】
第4回女性研究者研究発表交流会
2020年12月11日（金） 13:30～16:15

講演 「リケジョからリケジョにおくる、新しいキャリアの考え方」
4U Lifecare株式会社 代表取締役社長 CEO 伊藤 久美

【講演内容】
「リケジョ」は、働き方改革の推進に伴って、働き手と雇い主の双方が、互いに成長し、ともに歩んでいくことが求められる。一方、働き手側からは、働き方改革の推進に伴って、働き手側から雇い主側へ働き方改革の推進を促す役割も求められる。本講演では、働き方改革の推進に伴って、働き手側から雇い主側へ働き方改革の推進を促す役割も求められる。本講演では、働き方改革の推進に伴って、働き手側から雇い主側へ働き方改革の推進を促す役割も求められる。

研究発表
1 「多世帯住居に関する研究 共同研究成果の一般生活者への発信」
積水ハウス株式会社 住生活研究所 住生活研究所 住生活研究所
「近居する親子世帯における子育て期の生活共同化と住み方 24件のインタビュー調査から」
大阪市立大学生活科学研究科 修士課程 白井 友崇 藤本 真凛

2 「食品機能研究から多面的・多角的に考える食生活研究へ」
大阪教育大学 教育協働学科 准教授 西川 章江

3 「地域包括的な性教育モデルの展望」
和歌山大学 教育学部 特任助教 藤田 絵理子

【申し込み方法】
積水ハウスのダイバーシティ推進部（diversity@shimizuhouse.co.jp）までメールにてお申し込みください。
申し込みは12月11日（金）までに行ってください。
申し込みは、お申し込みの受付（受付） 学校（教員の場合は教員）の申請書に「参加希望」の欄に「参加希望」とお申し込みください。
申し込みの受付は、12月（水）です。この申し込みはZoom参加用URLをお知らせします。
申し込みの受付は、12月（水）です。この申し込みはZoom参加用URLをお知らせします。
申し込みの受付は、12月（水）です。この申し込みはZoom参加用URLをお知らせします。
申し込みの受付は、12月（水）です。この申し込みはZoom参加用URLをお知らせします。

※お問い合わせ：積水ハウスのダイバーシティ推進部 TEL:06-6440-3240

【キャリア形成・研究力向上セミナー】

■研究力向上のための外部資金獲得セミナー

【2020年6月24日(水)】 オンライン開催 (Zoom) 参加：60名

録画視聴：大阪市立大学6名、和歌山大学10名

個別支援 (個別面談・申請書添削)：大阪市立大学5名、大阪教育大学1名、和歌山大学5名

講師：矢野 覚士 (ロバスト・ジャパン株式会社 講師)

講師にはロバスト・ジャパン株式会社の矢野覚士氏を迎え、科研費の現状や申請について、具体例やワークを交えながら講演いただきました。オンラインセミナーは初めての試みでしたが、研究室や自宅などからアクセスできる利便性もあり、リアルタイムでの参加者は60名、録画視聴も16名の申し込みがありました。

参加者へのアンケートでは、「とても参考になった(58.1%)」「参考になった(37.2%)」を合わせて95%を超え、大変ご好評をいただきました。「講師の説明が丁寧で的確だった」「疑問に思っていたことが解消された」「頭の整理になった」などの感想をいただきました。また、Zoom開催については、「遠隔で受講できるのは、業務への差し支えが少なくよい」「リラックスして受講できる」「より集中することができる」「(チャットを使って)匿名で手軽に質問できる」といったオンライン視聴の利点を感じる方がたくさんいらっしゃいました。

■ポイントで学ぶ英語論文セミナー (実践編)

【2020年10月6日(火)・8日(木)】 オンライン開催 (Zoom) 参加：74名(10/6)、65名(10/8)

講師：小野 義正 (理化学研究所 創発物性科学研究センター)

今年度はZoomを使ったオンラインセミナーにて行いました。南近畿女性研究者支援ネットワーク(11大学・機関)も共催として参加し、延べ140名が受講しました。講師には、理化学研究所 創発物性科学研究センターより小野義正先生をお招きして、第1講義「英語らしい英語論文の書き方」(10/6)、第2講義「日本人英文を脱するために」(10/8)をテーマに講義をしていただきました。

参加者からは、「英語で論文を書いている時に、悩んでいた点がクリアになりました」「先生の授業のペースは非常によく、集中して聞きました」「英語の論文に特化した講義を受けたことがなく、とてもためになった」「例を豊富に示していただいたので、具体的にイメージしやすかった」といった声が聞かれました。また、Zoomでの開催については、「移動時間がないので、気軽に参加ができる」「移動中でもイヤホンを付けて受講できたのはありがたかった」「育児中に家で受けられたため、これからはずっとそうしてほしい」というように、好意的な反応が多くみられました。

【女性研究者メンタープログラム】

「女性研究者メンタープログラム」とは、連携機関に所属する女性研究者(メンティ)が、知識や経験の豊かな指導者・助言者(メンター)から研究生生活全般やキャリア形成等に関する支援・助言を受けられる体制を作り、問題解決のサポートを行うものです。メンティはキャリア意識の醸成、研究力やリーダーシップ育成、ライフイベントとの両立等の悩みや課題を相談することができます。さまざまな研究分野と多様な人材を有する連携機関が共同してメンタープログラムを実施することによって、メンティとメンターのマッチングを推進し、女性研究者ネットワークの構築につなげます。

■メンタリングプログラム (大阪市立大学)

ワーク・ライフ・バランス支援・研究力向上・上位職登用促進専門部会委員を対象に、新型コロナウイルス感染症の影響等に関するメンタリングを実施しました。(ワーク・ライフ・バランス支援：11/10、研究力向上：11/9、上位職登用促進：12/1、いずれも参加者は6名)

【女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業】

女性研究者のキャリアアップには外国語論文の作成が必須となっています。女性研究者の国際的リーダー育成を目的に、研究スキルアップにつながる外国語論文校閲・翻訳に係る費用を支援しました。

大阪市立大学 3件

大阪教育大学 3件

和歌山大学 0件

・大阪市立大学 2020年5月1日～2021年2月末。上限2万円(税込み)

・大阪教育大学 2020年5月1日～2021年3月末。上限5万円(税込み)

・和歌山大学 2020年4月1日～2021年1月末。上限5万円(税込み)

【企業インターシップ】

学生や博士研究員のキャリア形成や多様な進路選択を可能にするため、連携機関(大学)からポスドク1名、大学院生1名、学部生1名を積水ハウス株式会社ヘインターシップ派遣しました。先進的な企業の支援制度や研究環境に触れることで、多様な視座と研究意欲を喚起しました。

【研究施設の共同利用】

2016年度から文部科学省補助事業「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けた大阪市立大学人工光合成研究センター等と連携し、連携機関の女性研究者に対して積極的な研究施設(研究室、実験室、研究交流スペース、会議室等)の利用の促進を行っています。

IV 女性研究者の上位職登用促進

【2020年度ダイバーシティ研究環境実現 中間総括シンポジウム】

■ボーダーを越えて、女性研究者の未来を拓く

【2021年2月26日（金）】 オンライン開催（Zoom ウェビナー） 参加：314名
「2020年度ダイバーシティ研究環境実現 中間総括シンポジウム」をZoom ウェビナーで開催しました。

平成29年度に採択された文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」は4年目を迎えます。本事業の中間総括としてこれまでの成果を報告し、海外の先進事例からさらに取り組みを進展させることを目的として開催しました。シンポジウムのオープニングでは、4機関長がそれぞれ挨拶を行いました。

【第1部】講演会

講演① 「不可能への挑戦：UCLにおけるアテナスワン顕彰～A Success Story」

Sara E Mole (ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL) 総長付ジェンダー平等特使、分子細胞生物学医学研究所 教授)



Sara E Mole氏は、イギリスで創設されたジェンダー平等推進のための大学の認証制度「アテナスワン顕彰」を通じた取り組みの成果について講演しました。分子細胞生物学医学研究所は、UCLで初めてのアテナスワン顕彰の銀賞と金賞を受賞しました。大学全体の昇任規定や方針の変更により、2014年から2020年までに女性部局長の割合が33%に倍増しました。Mole氏は「私たちの働き方が次世代の標準になり、彼らが昇進したときに、ともに優れた実践を実行できるようにすれば」と話しました。

講演② 「科学、工学、医学分野におけるジェンダー・エクイティの発展」

Molly Carnes (ウイスコンシン大学 マディソン校 WISELI ディレクター、医学部教授、女性健康研究センターディレクター)



Molly Carnes氏は、「色の名前と文字の色があてはまらない場合には、無意識に何かを認識するために情報が干渉し合って、色の名前と文字の色があてはまっているときと比べて読むのに時間を要する」というストローク効果を例に出しながら、「ジェンダーの固定観念は、人々の暗黙的なバイアスに大きく影響を与える」と話し、ジェンダーの固定観念がもたらす様々な女性のキャリアの障壁の事例を挙げ、その解消方法について研究・調査をもとに説明しました。

【第2部】パネルディスカッション「女性リーダー育成と上位職登用の現状と課題」

第2部のパネルディスカッションでは、まず、各機関からこの事業における成果や取り組みについての報告が行われました。続いて、補助事業を通じた女性のリーダー育成・上位職登用の仕組みづくりや、女性のリーダー育成・上位職登用における上司・管理職の関与や研修、人事評価・選考などの課題について話し合いがなされ、アドバイザーよりメッセージをいただきました。

Mole氏は、「UCLでは大学内での貢献を重視したシティズンシップ（市民性）の評価を新たに導入しています。昇進基準を変えることで、女性だけではなく、これまで昇進できなかった男性も昇進できるようになりました。さらに黒人女性など、恩恵を受けてこなかったグループに目を向けることが重要です」と意見を述べました。

Carnes氏は、「ジェンダーの固定観念があるために、育児や介護をしている男性への評価が低いという実態もあります。例えば、教員の25%がバイアスリテラシーのワークショップに参加するだけでも、バイアスの習慣が変わり、行動規範に変化をもたらします。バイアスに気づき、行動を変え、職場の風土を変えることが重要です」とアドバイスをしました。



- | | |
|----------|---|
| パネリスト | 鈴木 真由子 (大阪教育大学 学長補佐) |
| | 添田 久美子 (和歌山大学 副学長) |
| | 河崎 由美子 (積水ハウス株式会社 住生活研究所 所長) |
| ファシリテーター | 池上 知子 (大阪市立大学 副学長) |
| アドバイザー | Sara E Mole |
| | Molly Carnes |
| モデレーター | 西岡 英子 (大阪市立大学 女性研究者支援室 プログラムディレクター、特任准教授) |

【女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修】

女性研究者自らの上位職登用に関する意識啓発、また管理職を対象とした女性研究者の積極登用や管理職育成を目的とした意識改革を醸成するためのキャリア研修を実施しました。

■ダイバーシティ推進セミナー

【2021年2月1日（月）～2月28日（日）】 オンデマンド開催 参加：64名
講師：野坂 祐子 (大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授)

「安全・安心な関係性と性的健康 (sexual health) ～コロナ禍におけるトラウマインフォームドケア～」
ダイバーシティ推進セミナーをオンデマンド実施、大阪大学大学院人間科学研究科の野坂祐子 (のさか さちこ) 准教授を講師に招き、「安全・安心な関係性と性的健康 (sexual health)」～コロナ禍におけるトラウマインフォームドケア～と題する講演が行われました。

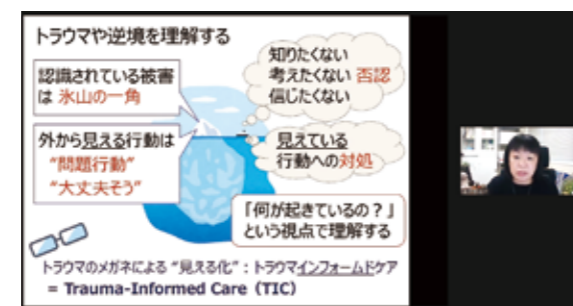
野坂准教授は、コロナ禍では感染自体に注目が集まりやすいが、実際は自殺者数や中高生の性的な問題が増加

しており、その影響についてデータに基づいて説明しました。また、この問題は男女共同参画やジェンダーとも関係が深く、コロナ禍における注意点を解説しました。

学校現場においては、つらい状況にいる子どもたちが、自らの「性」を問題解決の手段として用いる理由について、その背景とともに説明しました。子どもの性行動の問題に対峙する際には、性に関する知識や危険性だけを伝えるのではなく、むしろ普段の学級運営で子どもたちの不安解消、人との関わりや 関係性、自分に自信を持たせるといようなことをめざすことが、遠回りでも効果があると述べました。

最後に、学校現場の教員が、学生・生徒・児童・園児らの性的な問題に対応する際のアプローチは、心理職が担う「トラウマのケアそのもの」ではなく、まずは「背景に何かあるのかもしれない」と理解しようとする視点をもって行動の背景を意識的に見るアプローチである「トラウマインフォームドケア」を紹介するとともに、チームで取り組むことの大切さについても強調しました。

参加者からは、「今までも関心がありましたが、今の状況を鑑みると今、さらに重要となってくると思われる内容でよかったです。基本的な考えだけでなく、具体的な対応も教えていただき、参考になりました」「教員が児童・生徒・学生のことを見つけ、原因を追究していくことは案外難しいのかもしれないが、難しいからと言って逃げてはいけないうことを強く感じさせられた」などの感想が寄せられました。



■ダイバーシティ研修「仕事と介護の両立セミナー」

【2021年2月10日(水)】 オンライン開催 (Zoom ウェビナー) 参加：58名

第1部 講演「男に介護は難しい?～ジェンダーの視点で考える親の老いへの向き合い方～」

講師 平山 亮 氏 (大阪市立大学 文学研究科 准教授)

第2部 研修「仕事と介護の両立について」

講師 湯浅 美佐子 氏 (大阪市立大学 女性研究者支援室 介護アドバイザー)

超高齢化社会において、介護は喫緊の課題であり、仕事と介護の両立について理解することは、働きやすい環境を整備するうえで重要と考え、今回の研修を企画しました。

研修は2部構成で、第1部では社会学、ジェンダー研究が専門の平山亮氏を講師にお招きし、男性学の視点から、親の介護と向き合う方法をご講演いただきました。

介護の「基礎」となる料理や洗濯等の家事は、介護の重要な要素であるにも関わらず、介護の負担としてはカ

ウントされていない、介護の考え方にもジェンダー差があり、それを知識として理解することが介護とうまく向き合うことに繋がるとのお話に、大変勉強になった、目から鱗が落ちたなどの感想をいただきました。

第2部では、現在取り組んでいる「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)」事業で、連携機関が共同で開設している「介護相談窓口」の介護アドバイザー、湯浅美佐子氏による仕事と介護の両立に向けた解説がありました。介護が必要となる前に備えることが重要であるとお話に、是非相談したい等の意見をいただきました。アンケート結果では、受講者の満足度が高く、大変有益な研修となりました。



【プロモーションメンタープログラム】

大阪市立大学は上位職の女性研究者を育成するため、2019年1月に上位職をメンターとする「プロモーションメンタープログラム」制度を導入しました。学長補佐および部局長の2名のメンターによるメンタリングを2019年9月から試行的に開始し、これまでに5件に対して実施しました。2021年2月には、共同実施機関へ実施状況について報告しました。

【クロスアポイントメント制度】

クロスアポイントメント制度により、2020年4月1日に、武庫川女子大学と日立造船株式会社からの女性研究者2名が大阪市立大学工学研究科に着任しました。

大阪教育大学において、2020年4月1日にクロスアポイントメント制度の導入を開始しました。女性研究者ではないものの、2020年7月1日に株式会社オーグス総研から1名(特任准教授)が理数情報教育系に着任しました。



各連携機関のその他の取り組み

大阪市立大学

■女性研究者表彰制度 [岡村賞]

【2020年12月25日(金)】2014年度に創設した女性研究者表彰制度を継続し、優れた研究活動や教育活動及び男女共同参画推進に貢献した女性研究者3名を表彰しました。

■第7回 大阪市立大学 女性研究者特別賞・奨励賞 [岡村賞] 受賞者

■特別賞

濱野 佐知子 (理学研究科 数物系専攻 准教授)

■博士研究員奨励賞

ローサ・マイタ・パラシオス

(理学研究科 研究員/南部陽一郎物理学研究所 特別研究員)

■大学院生奨励賞

磯見 麻衣 (生活科学研究科 居住環境学講座 後期博士課程3年)



■女子中高生のための関西科学塾

【C日程：2020年10月25日(日)】 参加：中学生34名

「第15回女子中高生のための関西科学塾」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンライン実験講座での開催となりました。

関西科学塾は、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、大阪府立大学、大阪市立大学の関西主要6大学が中心となり、女子中学生・高校生を対象に行う企画です。この企画では、科学の面白さを体験できる大学での実験講座に参加したり、科学やものづくりに関わる体験学習ができます。大阪市立大学での実施は今年で5回目となり、実行委員の後藤慎介教授(理学研究科、本学実行委員会委員長)が中心となって運営に携わりました。

■理系女子学生のインタビュー動画作成

オープンキャンパスに合わせて、工学・理学・生活科学部・研究科の女子学生によるインタビュー動画「Girls in Science～理学部女子学生インタビュー」「Girls in Science～工学部女子学生インタビュー」「Girls in Science～生活科学部女子学生インタビュー」を制作。理系女子学生・教員が情報発信する「note」を開設し、動画を紹介しました。

■日経ウーマノミクスフォーラム 2020 バーチャルシンポジウム

- ・高校生 WEB 座談会「働きやすい社会とダイバーシティ推進」(9/8,9/11)、「環境問題改善を考える」(9/4, 9/10) に、工学研究科、生活科学研究科、医学研究科の女性大学院生各1名が参加しました。
- ・プレゼンテーションコンテスト(9/30)(工学研究科、生活科学研究科の女性大学院生各1名のチームで参加)では、三洋化成工業特別賞を受賞しました。



■女性研究者キャリアカフェ in 大阪市立大学

【2021年1月22日(金)】 参加：36名

講師：藤本 恵美子(日立造船株式会社 夢洲エリア開発推進室担当部長、大阪市立大学 工学研究科 助教)
子安 直子(レンゴー株式会社 中央研究所 研究企画部企画第二課担当課長)

講師には、日立造船株式会社よりクロスアポイントメント制度で大阪市立大学工学研究科に来られている藤本恵美子先生と、レンゴー株式会社の子安直子氏をお迎えし、理系女性のキャリアアップとワーク・ライフ・バランスについてご自身の体験談を交えながらオンラインにて講演いただきました。



【大阪教育大学】

■男女共同参画推進助成の実施

男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動に対する助成事業を学内公募し、ジェンダーによる学生の在籍者数に大きな偏りが見られる講座について、具体的なロールモデルの提示を通して教科・科目に対する固定的なジェンダーイメージを解消し、学生の可能性を広げる事業に対して助成を行いました。学内公募(7/15締切)実施、4件応募、2件を採択しました。

■男女共同参画関連特別講義「ジェンダーとセクシュアリティ」

【2021年1月13日(水)】オンライン開催 参加：150名

講師：井上鈴佳氏「多様な性を生きる」

大阪教育大学 教育学部養護教諭養成課程 卒業後中学校・高等学校の保健室で勤務の後、大阪府内外の小中学校・高等学校・特別支援学校での教職員研修会や子どもたちへの特別授業など、LGBTと性の多様性に関する出張授業を精力的に行っている井上鈴佳氏を招き、特別講義を行いました。自分がある時にレズビアンであることに気づき、そのような経験の中で悩んだことをベースに大変説得力のある講演でした。受講生からは、「人柄や話し方によるものも大きいと思うのですが、LGBTに感じていた壁がなくなりました」「お話を聞く前はLGBTについては未知との遭遇で、『あまり触れてはいけない話題なのかな』とすら思っていたのですが、お話を聞くうちに自分の固定概念が変わっていききました」などの感想が寄せられました。



また、同特別講義として、「キャリアデザイン」、「キャリア教育」で1月22日(金)に1コマ、1月26日(火)2コマ予定していたパラアスリートによる講演は、講師の都合により直前で中止となりました。

■保育サポーターによる子育て支援

【2021年2月13日(土)】参加：3名

今年度はコロナ禍により学童保育プログラム「キッズサマーキャンパス」を実施できませんでしたが、保育サポーターが実践の場を経験できる機会として、本学所在の柏原市が運営する子育て支援施設において



本学准教授小崎恭弘が講師を務める子育てイベント「パパ、ママと一緒に遊ぼう」～子どもと仲良くなるポイント～でのサポートを実施しました。講師のアシスタントや保護者・子どものフォローから、感染予防対策や実施後の消毒作業等も行いました。密を避けるため派遣できるサポーター人数は限られていましたが、実際に子どもとふれあいながら子どもへの関わり方を学ぶことのできる貴重な機会となりました。

■管理職セミナー

【2021年2月15日（月）】オンライン開催 参加：30名

女性研究者上位職登用に必要な知識を習得すべく、社会保険労務士から、労務管理、ハラスメントなどに関わる管理職研修会を実施しました。“いま”の時代に求められる労務管理のあり方を再確認し、実際に他の大学等でトラブルになっている事例などを確認しながら、管理職として講ずべき対処方法について考え、実際の現場における適正な労務管理につなげる内容です。必要な知識と管理職としての義務を知ることによって漠然とした不安感を払拭し、さらに一人ではなく、全体・チームで対処することも併せて理解し、自信と意欲をもって自信と意欲をもってキャリアアップを志向する機会となるよう実施しました。

【和歌山大学】

■小学校第1年次の「子の世話をを行うための休暇」を新設

男女共同参画推進室が育児休業取得者へヒアリングを実施した結果、小学校入学時に子どもの帰宅時間が早くなること（所謂「小1の壁」）を不安視する意見が出されたことを受けて、この課題に対応するため、2020年4月に小学校第1年次の「子の世話をを行うための休暇」を新たに設けました。

■産前・産後休暇の取得及び介護休業に伴う代替者の要件を改善

常勤の教職員が産前・産後休暇の取得及び介護休業を行う期間は、原則6時間勤務の臨時職員を代替者として措置していましたが、8時間勤務の臨時的任用による代替者を措置できるよう改善し、出産しやすい職場環境、介護による離職が起こらない環境への整備を行いました。

■女子トイレの増設

西2号館のホールを、新たにパウダールームを備えた女子トイレへと改修し、女子トイレを増築、女性が快適に過ごせるよう、環境整備を行いました。



■スタートアップ研究費支援

ライブイベントによる研究中断からの復帰支援として、スタートアップ研究費支援の募集を実施しましたが、今年度は支援対象者がいませんでした。一方、産休・育休・介護休業の研究者の研究室運営をサポートする研究者への支援として、今年度育児休業を取得中の研究者の指導学生（ゼミ生）を代わりに指導している研究者1名への研究費支援を実施しました。

■女性研究者への支援を強化した学内研究支援プロジェクトの実施

競争的資金を配分する学内研究支援プロジェクト「独創的研究支援プロジェクトB」において、令和2年度から女性研究者への支援を強化した公募を実施し、1名の女性研究代表者のプロジェクトを採択しました。

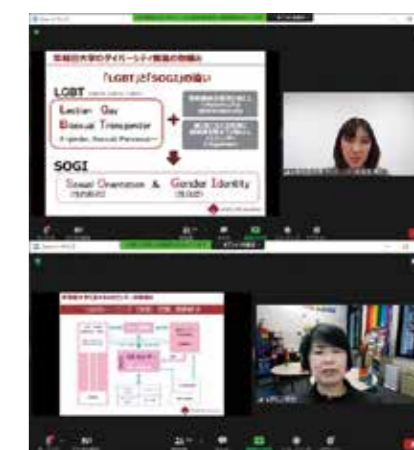
■女性研究者への研究費支援

女性研究者の研究力向上を促進するため、国際学会参加における補助を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度の募集は実施できませんでした。一方、女性研究者が論文執筆した際の投稿料・掲載料の補助を実施し、1名に研究費を支援しました。

■SOGI研修の開催

【2021年3月23日（火）】オンライン開催（Zoom） 参加：66名

2020年12月に「和歌山大学におけるSOGIの多様性に関する対応ガイドライン」を策定したのを契機に、教職員が現場レベルで実際にどのようにSOGIに関する課題に対応していくべきなのかを考える研修会「早稲田大学におけるダイバーシティ推進の取組み、GSセンターの取組み」を開催しました。ダイバーシティを積極的に推進している早稲田大学より担当者をお招きし、具体例を挙げた実践的な講演をいただきました。事前に受け付けた質問に対する回答をいただくなど、今後SOGI対応に取り組む上で、大変有意義な研修となりました。



【積水ハウス株式会社】

■「仕事と育児の両立いきいきフォーラム2020」

【2020年6月18日（木）～7月20日（月）】 参加：3,130名

今年度は「『わが家』を世界一幸せな場所にしてGOODサイクルを回す」をテーマに開催しました。コロナ禍での開催につき、従来の集合研修ではなく「講演動画視聴+WEBグループディスカッション」とし、期間内の都合のよい任意の日時に参加できるようにしました。WEBでのグループディスカッションとしたことで、従来ならディスカッションできなかった離れた地域の社員とのディスカッションが可能となり、参加もしやすく好評でした。3歳以下の子を持つ父親1,503名、母親（育休中含む）426名、上司1,201名、合計3,130名が参加し、それぞれの立場でキャリア形成について考え、グループディスカッションで意見交換・討議することによって、学びや気づきを得ることができました。

■「イクメンフォーラム2020」

【2020年9月17日（木）、9月19日（土）】

昨年に続き、9月17日にメディア向けにオンライン「イクメンフォーラム2020」を開催しました。モデレーターにNPO法人ファザーリング・ジャパン ファウンダー/代表理事 安藤哲也氏を迎え、前内閣府男女共同参画局長 池永肇恵氏、三重県知事 鈴木英敬氏、ジャーナリスト 治部れんげ氏、当社執行役員 伊藤みどりによる「サステナブルな社会実現に向けた男性育休の質向上」をテーマとしたパネルディスカッションを実施。官民一体となって男性育休を考えることの重要性を訴えました。

VI 主な取り組み一覧

9月19日には一般向けにWEB番組「だって家族といたいから #育休を考える日」を配信。MCにハヤカワ五味氏、ゲストにエッセイストの犬山紙子氏・剣樹人氏ご夫妻、社会学者 田中俊之氏を迎え、また育休取得経験のある男性観覧者も参加しながら、男性の育休を通して家族のあり方や家族の幸せなどをテーマに話し合いました。

また、これらに合わせ、昨年に続き全国の小学生以下の子どもを持つ20～50代の男女、47都道府県、9,400人を対象とした調査を実施し「イクメン白書2020」としてまとめ、発行しました。(当社HPよりダウンロード可)



■ダイバーシティ推進の講義を各種研修に導入

昨年に引き続き、マネジメント層を対象とした「新任リーダー研修」「リスクマネジメント研修」「支店経営強化研修」「新任支店長研修」「技術次長研修」にダイバーシティ推進の講義を導入し、女性のキャリア促進、両立支援、働き方改革等の女性活躍の意識啓発を行いました。また「ダイバーシティ月間(6月)」には「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」をテーマとし、全従業員が個人ワークとグループディスカッションで理解を深めました。

■積水ハウス ウィメンズカレッジ

【2020年6期生、7期生】参加：40名

管理職候補の女性を全国から選抜し、2014年より毎年実施しています(2020年度はWEB開催)。2年間のカリキュラムで確実に育成し、計画的かつ適正に実力ある女性の管理職登用を実現します。1年目は、経営視点を養うスキル学習によりマネジメントの本質を学び、2年目には、職場の課題を解決する経験学習により現場対応力を強化。目標である「管理職に相応しい経営視点・実力の向上」と「管理職資格昇格への意欲・自覚の醸成」の達成を目指しています。

結果、「女性管理職2020年度までに200人」としていた目標を「2019年度206人」で前倒しで達成。カレッジ開講時の「2014年度101人」から倍増しています(2020年4月には229人)。今後は、女性活躍推進法に基づく行動計画の目標の一つとして新たに策定した「積水ハウスグループ全体で、女性管理職を2025年度までに310人以上登用する」という目標の達成に向け継続していきます。



月	日	取 り 組 み
4月	24日	介護ハンドブック解説動画「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」(認知症編) YouTube映像公開
6月	15日	第1回 連携機関連絡会議
	24日	研究力向上のための外部資金獲得セミナー (Zoom開催)
9月	15日	第1回 南近畿女性研究者支援ネットワーク会議
10月	6日・8日	ポイントで学ぶ英語論文セミナー (実践編) (Zoom開催)
12月	11日	第4回 女性研究者研究発表交流会 (Zoom開催)
1月	29日	第2回 連携機関連絡会議
2月	1日～28日	ダイバーシティ推進セミナー「安全・安心な関係性と性的健康 (sexual health) ～コロナ禍におけるトラウマインフォームドケア～」 (オンデマンド実施)
	10日	ダイバーシティ研修「仕事と介護の両立セミナー」 (Zoom開催)
	26日	中間総括シンポジウム (Zoomウェビナー開催)
3月	5日	第1回 連携機関長会議
	15日～31日	令和2年度 保育サポーター育成研修講演会「あなたの身近にもいるLGBT～男女やLGBTだけじゃない！性のあり方は十人十色～」 (オンデマンド実施)

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
事業報告書 2020（令和2年度）
南近畿から広がる新しい未来への扉

発行日 2021年3月
発行 大阪市立大学 女性研究者支援室
連絡先 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
Tel: 06-6605-3661
E-mail: ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp